

2008年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 面高度場では、準定常ロスビー波の波束伝播に伴ってブロッキング高気圧が発達・持続したグリーンランドと東シベリアで顕著な正偏差となった。また、中旬にリッジの発達したアリューシャン列島の南でも正偏差となった。一方、ヨーロッパと北米では負偏差となった。オホーツク海付近にしばしば高気圧が現れたが、長期間持続しなかった。北半球のジェット気流は、ブロッキング高気圧の発達した東シベリアで南北に分流し、トラフの発達した北米大陸上で平年よりも南に偏った。対流圏下層の気温は、リッジやブロッキング高気圧の発達した北アフリカから東シベリアにかけて高かった。北西太平洋と北西大西洋のストームトラック域では、高周波擾乱の活動が平年よりも不活発だった。

熱帯の対流活動は、インド洋西部、大西洋熱帯域で非常に活発、ニューギニア島付近から南太平洋収束帯にかけても活発だった。一方、インドシナ半島からフィリピン付近にかけては対流活動が不活発だった。赤道季節内振動 (MJO) に伴う対流活発域の東進は、6月前半には、インド洋から西部太平洋にかけて明瞭に見られたが、後半には MJO の振幅は減衰し、東進も不明瞭となった。アジアモンスーン域における対流活動は平年並だったが、その分布は西に偏っていた。

対流圏下層の循環を見ると、インドシナ半島からフィリピン付近にかけて高気圧性循環偏差が分布し、モンスーントラフの深まりは平年よりも弱かった。

南方振動指数 (SOI) は+0.5となった。

世界の天候

2008年6月の世界の月平均地上気温年差は+0.19°Cで、1891年の統計開始以来、9番目に高い値となった。6月の世界の平均地上気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は0.64°C/100年である。

○シベリア南部から中国北西部や、中東からヨーロッパ中部の広い範囲で異常高温となった。

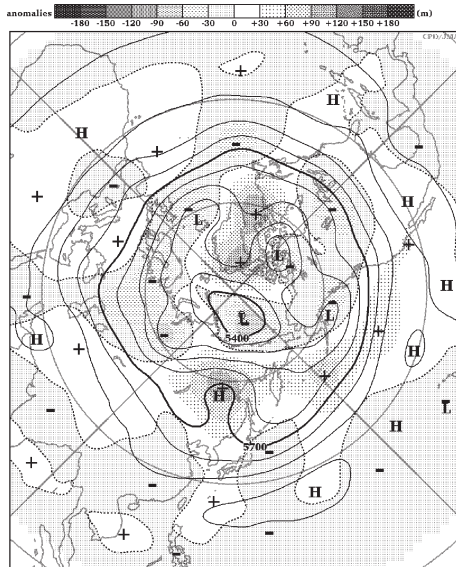
○中国南部では梅雨前線に伴う大雨により60人以上、フィリピンでは台風第6号により780人以上の死者が伝えられた (中国政府, IRIN による)。

○米国中西部では大雨による死者や洪水の被害が伝えられた (FEMA による)。

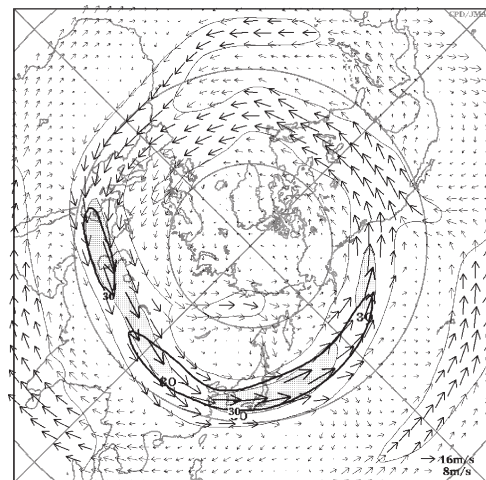
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

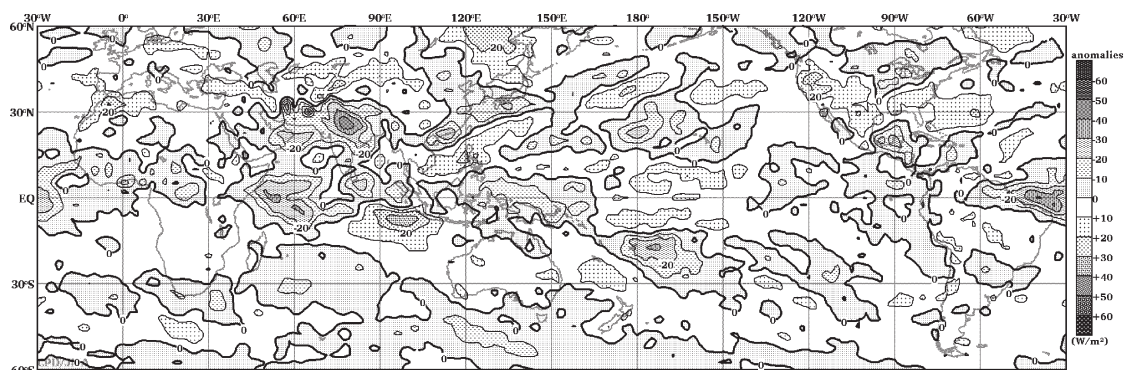


2008年6月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60 m. 陰影は年偏差. 年偏差は1979~2004年のデータから作成。

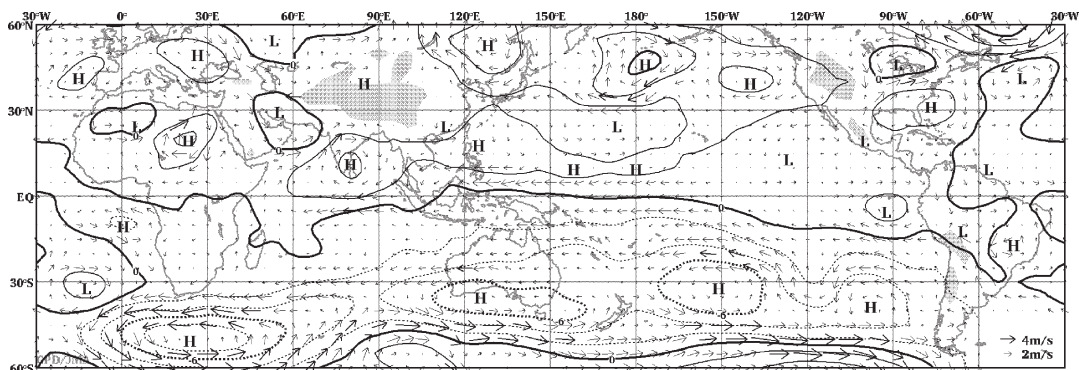


2008年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

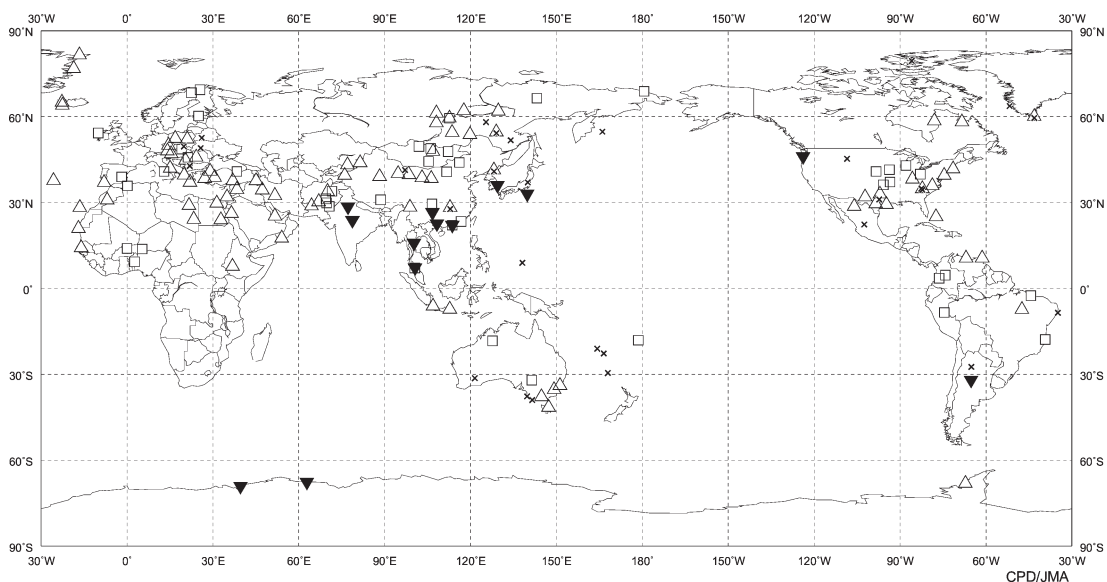
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s 以上. 太実線で囲まれた領域は年々の30 m/s 以上の領域を示す. 年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年6月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。